

---

# とある魔術の動く死体 《リビングデッド》

マサ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある魔術の動く死体リビングデッド

### 【著者名】

マサ

### 【あらすじ】

俺は死んだ…しかし気が付いたら世界に出会った。

特典を貰い別の世界に足を向ける。

さてと……運命を変えてみるか

主人公と世界が交わる時……………一つの運命<sup>げんさく</sup>が変わりだす。

## 主人公現状を知る（前書き）

初めまして、マサといいます

初めて投稿します。下手な文章ですが、応援お願いします。

更新は不定期です。

第一話を楽しんで見てください。

## 主人公現状を知る

「此処は……何処だ?」

(いや、まずわ落ち着いて考えないとな。)

俺の名前は、めいしんおなま冥神王 めいせいや正也

○×県に住んでいる電気を学んでいる専門学生だ。

今日は、普通に学校で電気の実験をしていたはずなのに気が付いたら、知らない部屋にいた。

「これは……どういう事なんだ?」

「それは、私が説明させていただきます。」

いきなり、俺の後ろから人の声が聞こえ急いで振り返る、そこにはいたのは。

「誰だ、あなたは?」

「私は、あなたの運命を決める者ですよ、正也さん。」

「なぜ……あなたが俺の名前を知っている?」

「それは、そんなに重要な事ではありません。今重要なのは、あ

なたが此処に来る直前の記憶を覚えていいるかどうかです。」

（此処に来る直前の記憶だと……あの時俺は電気の実験をして……いや、待てよ……確かあの時……）

「ああ……そうだ、思い出した。」

「あの時……俺は間違つて電流が流れている機材に触れて感電してしまつたんだ。」

「そり……そしてあなたは、返らない人になつた。」

「……つまりあなたの正体は」

「はい、その通」

「天使か、それとも死に神か？」

「違います！……それよりもさうに上の存在です。こんな時に何を言つてるんですか。」

「すまない……現状が判らなくてな。」

「はあ……といつあえず私は、あなたたちが思つよつて、存在ではないですよ。」

「なに……どうも存在なんだ？」

「私は……一般に世界と呼ばれています。」

「なるほど……それで世界、何故俺は此処に居るんだ。」

「それは……あなたが、きわめて特別な存在だからです。」

(特別な存在?)

「あなたは……私を……世界の垣根を越えられる存在。いえそれ以上の存在かも……」

(つまり……特別な存在は世界を越えられるだけではないか……世界は俺に何かをやらせたいから此処に呼んだのかもしないな。)

「あなた……もう一度人生をやり直しませんか、あなたの存在はものすごく貴重なんです……今度は幾つかの特典を付けてね。」

「……一つ聞かせてくれ。きわめて特別な存在って何なんだ。？」  
あともう一度人生をやり直せるのは本当か?」

「質問が一つになつてますよ……特別な存在とは、運命に縛られず、世界を越えられる存在の事を言つんです。」

「運命に縛られていないから不幸な定めを変えられます。普通は世界を越えられる存在でさえ珍しいのに、まさか二つの力を持つている人がいたなんて、奇跡を遙かに超えています……」

「……一つ目の質問は、その通りと言つておきます。……それでどうしますか。生き返るのですか?」

(俺は……もう一度人生を……やり直してみたい。)

「頼む……生き返らせてしまい。」

「わかりました。……ではこちからこ来て下さー。」

神様と主人公が出会う時……一つの物語りが始まる。

## 主人公現状を知る（後書き）

第一話を見ててくれてありがとうございます。

これからもなお一層頑張るので応援をよろしくお願いします

なかなか話を作るのは大変です

## 主人公、転生する世界を決める（前書き）

こんにちわマサです。次の話を作りました。

連載小説は大変です。なかなか次の話に進められません

次こそは主人公の設定を作りたいです。

次の投稿は、土曜か日曜日になります。

## 主人公、転生する世界を決める

俺は、世界の後に歩いて行くと白い扉の前にいた。

「どうぞ、入ってください。」

世界が扉の中に入ったので俺も急いで入ると、中の様子は、俺の住んでいた部屋にそっくりだった。

「なんで……」

俺が疑問に思っていると、答えをくれたのは世界だった。どうやらこの部屋は、俺が一番落ち着いて考えられる様に、世界が用意してくれたらし。

「では、特典について説明させてもらいます。」

「まつてくれ……俺が生き返る世界はどんな世界だ、生き返る世界によって特典が変わるだろ。」

「生き返る世界は、あなたが選んで決めますよ。」

世界によると自分で、生き返りたい世界を選択できるらしい。それなら俺が生き返りたい世界はもう決定している。

「俺を……とある魔術の禁書目録の世界に生き返してほしい。」

「何故……その世界に生き返りたい……または転生したいのですか。」

理由は「一つ、

一つは、もっと刺激的な日常に暮らしたいから。

一つは、魔術や超能力などの、特殊な力を使ってみたいから。

「一つの理由なら……リリカルなのは・魔法先生ネギまの世界でもよろしいのです?」

それでは駄目なんだ……何故なら俺は、なのはやネギまの原作を知らない、それでは転生した後動き方が曖昧になるそれでは危ない、それよりも原作を知っていて、何が起こるのか事前に察知できれば原作をより良く出来からな。

「なるほど……だからこの世界なんですね。……わかりました。  
あなたをとある魔術の禁書目録の世界に転生します。」

「これで俺の転生する世界が決まった。まだ特典を決めるやり取り  
が残っている。最後まで気をぬけない様にしないとな。

世界と主人公が話し合いをするとき主人公の転生する世界が決ま  
る。

## 主人公、転生する世界を決める（後書き）

小説を読んでくれてありがとうございます。

時間がたりません、けど時間厳守で投稿します。

主人公はどうゆう存在になるか作者もわかりません。

これからも応援お願いします。

## 主人公、特典を貰う（前書き）

こんにちわマサです。今回は難産でした。

ようやく、主人公が特典を貰う所まで行きました。

次の投稿は土曜か日曜日です

次は主人公の紹介をします。

## 主人公、特典を貰う

「それでは、今度こそ特典について説明させてもらいます」

「ああ……よろしく。」

世界によると、特典はあまりに強すぎてはいけない。これは世界のパワーバランスが崩れるからだ。

例だと。

ドラゴンボールのサイヤ人の力、又はドラゴンボール

月姫の、直死の魔眼、想像具現化

Fateのエヌマエリシュ

遊戯王のカードの力

これらは全部駄目、しかし戦闘に直接関係ないものなら大丈夫だ  
そうだ。特典を付ける数は後で決める。

「以上です……何か質問は。」

「特典の数はどうやって決める。」

「それは……これです。」

世界が俺に見せた物、それは。

「一つのサイコロ?」

「はい。その通りです。」

「何故、サイコロ?」

「それは、あなたが今から転生する世界が《とある魔術の禁書目録》の世界だからです。あの世界は伝承や神話が力になりますから。」

「それはわかった。しかしながらサイコロなんだ。」

「あなたは、カエサルの言葉《賽は投げられた》と言ひ乍言を知っていますか、それにちなんでいるんです。」

確かカエサルの最後は裏切りでその生涯を終えたはずなんだが、  
まあいいか。

「では……賽を振つてください。」

俺はサイコロを渡され、そしておもじつきり賽を振つた。

サイコロの出た目は、六と二

「決まりましたね、あなたの特典の数は八です。八つの特典を決めてください。」

俺は戦闘に直接関係なく、なおかつ役立つ特典を考えてこの八つにした。

一 金運EX

二 幸運EX

三 原作よりも早く生まれれる

四 影を無限の倉庫にする

## 五 才能の開花EX

六 技能や技術を教えてくれる人を用意する

七 人格面を良くする

八 死ににくい体

「以上でよろしいですか。」

俺は少し考えてそのままの力では原作破壊はできないと思い世界に相談した（とある魔術の禁書目録の世界には、聖人のような化け物がいるため。）

「もう少し特典を貰えないか。」

世界は少し考えてある提案をした、それは世界に代償を払いその代償に見合った特典を貰えるという物だった。

俺は代償を四つ差し出す事を決めた。

一 右眼の視力

二 身長と体重を中学生で止める（これは、二つで一つの特典を

三 痛覚を無くす

四 良心の喪失

四つの代償で新たに特典を四つ貰える事になった。そして次の特典はこのようにした

九 人脈を作る才能EX

十 主人公に早めに会える様にする

十一 強さの限界を無くす

十二 NARUTOの忍術を使える

「これで、全てが終わりました。後は転生するだけです。あなたの次の人生に幸あらんことを」

「ありがとう。 それじゃ行つてくる。」

こうして俺はとある魔術の禁書目録の世界に転生した。原作破壊を起こしてみるか。

主人公が特典を貰う時原作が破壊される。

## 主人公、特典を貰う（後書き）

私の小説を読んでくれてありがとうございます。

誤字、脱字があつたら教えてください。

感想や意見をくれると嬉しいです。

## 主人公の設定（前書き）

こんじょうはマサです。

投稿が遅くてですいません。

次の投稿も土曜か日曜日だと思います。

## 主人公の設定

### 《名前》

冥神王 正也（めいしんおう まさや）

○×県の専門学校の学生だったが、実習の事故により死亡。そのあと、世界という存在に会い、いくつかの特典と代償を払い『とある魔術の禁書目録』の世界に転生する事になった。ちなみに単行本は全て読んでいる。上条当麻の様に自分だけの譲れない考え方がある。

### 《性格》

転生前は穏やかで争い事が苦手だったが、転生後は普段は穏やかだが争い事が起こると乱暴な性格になる。

### 《考え方》

普段は話し合いで物事を解決するが、悪には悪を暴力には暴力を使う事に嫌悪感はない、それゆえ自分も暴力により蹂躪されても仕方ないと考え、死ぬ時はあっさり死んでも誰も怨まない。ある意味普通の人には考えられない狂氣的な異能者。ちなみに好きな言葉は、「口には口を歯には歯を」「狂氣の沙汰ほど面白い」。

### 《能力》

### 一 幸運EX

これから運命でどれだけ運がいいかわかるこのランクだと死ぬような事が起こっても問題なし。

### 二 金運EX

これから運命でどれだけお金が手に入るかが表されているこのランクだと一生お金に困らない。

### 三 影を無限の倉庫にする

お金やコレクションを常に最高の状態に維持でき、どんなに大きい物でも無限に入る。主人公は自分達の本拠地を入れている。

### 四 才能の開花EX

自分がもつている才能がきっかけさえあれば簡単に目覚めるまた苦手な事でも鍛えれば人よりも上手くなる。

### 五 自分の技能や技術を鍛える人を用意する 文字通りの意味転生した後に出でくる。

### 六 人脈を作る才能EX

主人公が情報を集めるために手に入れた能力、このランクだと世界中の知りたい情報がかなり早く手に入る。

### 七 死ににくい体

文字通りの意味で簡単には死はない、この特典は後になれば更に進化する。

### 八 人格面が良くなる

どんな人にも好かれる様になる。人脈EXと合わせればどんな事になる。

九 強さの限界を無くす  
鍛えれば鍛えるほど肉体が強くなる。ただしかなりの時間修行が必要。

十 原作よりも早く生まれる

修行や人脈のネットワークを作りたいから。

十一 原作よりも早く当麻、一方通行、浜面に出会う様にする。  
この三人は原作に大きく関わるから早い内に会つておく。

十二 NARUTOの忍術を使える

ただし、写輪眼や白眼などの魔眼は使えない、その他の忍術は大丈夫。

最後のNARUTOの忍術は原作破壊をしやすい様に選びました。  
何故ならNARUTOの忍術を除いた他の特典は戦闘では全く使えないからです。そのためNARUTOの忍術を特典で手に入れました。

《主人公が特典を増やすために世界に差し出した代償》

一 右目の視力

主人公が左目があるからいやと差し出した代償、これのお陰で右からの攻撃は反応が遅い

二 身長と体重（二つで一つの代償、正確には中学生ぐらいで成長が止まる）

体重が無いせいで軽い攻撃しかできず威力のある攻撃がしづらい、身長が無いせいでリーチが短い、主人公はこれらのせいで近距離の戦闘が苦手

### 三 痛覚がない

痛みがないので酷い怪我をおつてもきずかず戦いが終わると動けなくなる。

### 四 良心の喪失

良心がないので犯罪をしやすい。主人公は今のところ常識のお陰でまだ犯罪を犯していない

主人公は基本、情報提供を当麻、一方通行、浜面にしている、主に裏方が主人公の仕事。

戦闘では近距離が代償のせいでの不得意、ほとんど中、遠距離からの攻撃しかし近距離の技も少しは出来る。

## 主人公の設定（後書き）

今回は主人公の設定でした。次の話は赤ちゃんからだと思います。  
感想や意見をまっています。

主人公は生きる状況を探し出す（前書き）

いそにちはマサです。

すいません、中途半端な所で終わりました。

次の投稿は土曜か日曜日になると思います。

## 主人公は生きる状況を捜し出す

「どうも、皆さん久しぶり、さつき転生を終えた、冥神王正也だ。俺は今、二次小説でお馴染みの赤ん坊になつていてる。父親や母親は日本人ではなく欧米の人みたいに金髪、青目だ。あれ、ここは日本じゃない? どうゆう事だ?」

「この世界に転生して三年が立つた。今、俺は外で元気良く遊んでいる。赤ん坊の記憶は軽くトラウマになりそうだ。父親、母親は歐米人なのに俺は日本人みたいに黒髪黒目だったので初めは、迫害を請けるのではと思ったが、家族として受け入れてくれたから、とても感謝している。俺が住んでいる所はやはり日本ではなく今のドイツの近くみたいだ。しかも俺が転生した時代はどうやら神世の時代みただ。何故こうなったのか検討も尽きん。」

「ワールド、何処にいるの、そろそろご飯の時間よ」

「おや? 母が呼んでいる、今更だが今の俺の名前は「ワールド・プレゼント」。直訳すると「世界からの贈り物」となり、初めは世界が暗躍でもしたのかと思うほど変な名前だと思っていたが、今では馴れてしまい名前を呼ばれても平気になつた。」

（冥神王さん聞こえていますか、私は世界です今から貴方が置かれている状況を説明します）

世界の説明では、この状況は俺が特典で、「原作よりも早く生まれる」と望んだために、俺はこの時代に産まれたらしい。言わせてくれ、早く生まれすぎだ、このままだと原作が始まると死んでしまう。当面の目標は原作までに生きる方法を探す事か、生きる方法さえ見つかれば、その後の時間は色々な事に使えるからな。

しかし、今の俺は自分の持っている才能を上手く使うことが出来ないどうすればいいんだ？

主人公が時代を知るとき生きる方法を探し出す。

主人公は生きる状況を探し出す（後書き）

「Jの小説を読んでくれてありがとうござります。

次の話がでませ、どうあればいいんだ。

感想や意見をどんどん下せ。

## 主人公は一度死ぬ（前書き）

じここにちほマサです。

今回はとてもなく難産でした。一つの話を書くのはとても大変です。

突然ですが今回から漢数字を普通の数字にします。

『例』

百	十	一	1
1	0		
1	0	0	

また今週から小説をできれば2回書きます。自分を追い詰めて書く速度を上げるのが目的です。

## 主人公は一度死ぬ

皆さん久しぶり。冥神王正也、改めてワールド・プレゼントだ。あれからいろいろと原作まで生き残る方法を検討していたら、十年が過ぎて今俺は、十三歳になつた。

この十年の間に俺の体にはいろいろ変化が起こつた。まずは八年前に、高熱になつた、命は助かつたが右目が失明してしまつた。今でも右からの反応速度が少し遅いのが悩みだ。そして今日ついに、身体の成長が止まつた。

話は変わるが俺は転生前は成人男性よりも背が低く154cmしかなかつた、転生した後も背が伸びず小学生ぐらいの身長で成長が止まつた。これが俺のコンプレックスになつた。

これで世界に二つの代償を払つた後の二つの代償を払わないと、全ての特典が貰えないかも知れないしかも何時残りの代償を払うのが解らない、でも既に幾つかの特典は叶つていて、世界はとてつもなく曖昧だな。

ところで、今俺は家族と一緒に働いている、家族の仕事は行商人でいろいろな街を渡り歩く俺の役割は人の呼び込みだ、今日訪れる街は魔術の研究が盛んな街だ、この街で少しでもいいから生き残るヒントを手に入れるのが俺の目的だ。

「それじゃ…母さん、父さん呼び込みに行つてきます。」  
「いらっしゃい、しっかり仕事しろよ。」

さて何処で呼び込みするか、この街は外壁で囲まれているから、入口の近くでするか。

「いらっしゃい、いらっしゃい、いら「大変だ——魔術師がこの街に攻めてきたぞ急いで逃げる——」何だと……父さん、母さん」

俺は、急いで家族の所に戻った。家族のいた場所には家族だった物が転がっていた。

「あ…あ…そんな、そんなことがあつてたまるか、何で俺の家族が死ななきやいけない。」

「ほう…まだ生き残りがいたのか。」

声が聞こえた方向を見ると、ローブを着た大柄な男がいた。

「何で…こんな酷い事をした?」

「何、少し実験をしていたのさ……ふむこの小僧でもしてみるか……喜べ小僧、これが成功したら凄い力が手に入る。」

男は少しづつ俺に近付き不気味な魔法陣を作り出した。

「その魔法陣は何だ、俺に何をする気だ。」

「何、新しい魔術を小僧に刻むのさ、この魔術は人に特別な力を与え服従させる効果がある魔術だ。」

「本当は死体に魔術を刻むが生きた人間でも問題無い、ただこの魔術は計算上生きた人間に刻むと地獄の様な苦しみを味わうだから途中で死体になる。」

「しかし、それでは一々命令をしないと、動かない人形になる、それでは不便なんだ。だから一人ぐらい生きた人間が欲しいのさ。」

「どうか、生きた人間に魔術を刻み知能を持たせるのか、しかもこの魔術には服従させる効果もあるから、裏切られる心配が無い、しかし刻む時地獄の苦しみを味わうからほとんどの人が途中で死体になる、だからリビングデッドになるのか。なんて恐ろしい魔術なんだ。」

俺は逃げようとしたが途中で捕まり奴の魔術の実験体にされた、俺は世界に痛覚を渡しているから当然、痛みを感じず生き残った、俺はその時から忍術が使える様になつたが、その代わり両親を殺した男の奴隸になつた。

（いいぜ…今だけは奴隸に身を墮す、しかしこの魔術を解読して自由になつた時は…貴様に家族を殺された復讐を絶対してやる。）

主人公が魔術師と出会う時主人公は人で無くなる

## 主人公は一度死ぬ（後書き）

今回の話は今までより少し暗い話になりました。

次の話は、主人公を強くして復讐<sup>復讐</sup>をさせる所まで書きたいです。

次は水曜日に更新させたい。

## 主人公は復讐を達成する（前書き）

こんじょうはマサです。

今回初めて戦闘を書きましたとてつもなく難しいです。

次は主人公が動く死体リビングデッドとして生きていく話を書きたいです。

## 主人公は復讐を達成する

俺が魔術師によつて奴隸にされてから、10年ぐらいの年月が経つた、未だ俺の復讐は達成されていない。

魔術師の奴隸になつてからとても沢山の悪事をした。そのせいか良心が感じられない、今なら泣いている赤ん坊でも笑いながら殺せそうだ。俺が世界から貰つた特典は、良心を無くした時に全て手に入つた。俺は自分の全てを使い魔術師を殺す時が近い事を悟つた。

俺も馬鹿ではない、奴隸にされてから10年の月日を魔術師と一緒に暮らしてきた、魔術師に見付からない様に特訓したり魔術師の事を調べたりもした、復讐する為にも一度の周りの事を整理してみるか。

### 今、俺が使える戦力の状態

#### 1 「影の無限倉庫」

これは完璧、ただし戦闘では役に立たない、今はよく切れるナイフを9~10本程入れている。

#### 2 「NARUTOの忍術」

これは今は使える忍術が少ない、何故なら、魔術師に見付からないように特訓していたから後、教えてくれる先生がない為、今は【変化の術】、【影分身の術】【千里眼の術】そして今俺が使える最強の忍術【螺旋丸】ただし螺旋眼は影分身の協力が必要だ。

### 3 「少数の魔術」

魔術師が俺に教えた、この時に魔術師の名前や実力（この国で一番悪名が高く、戦闘力も高い）も教えられた。フールにより『人払いの魔術』『明かりをつける魔術』など基本的な事しか教わっていない、何故なら俺は奴隸にされてから忍術しか使わなかつたから、体の中に忍術のラインが作られた（つまり体中にチャクラの通り道ができたから魔術を使うと体中がボロボロになる。）魔術を教えたいたフールがそのことに気づき、魔術を教える事を諦めた、そのため俺は魔術を使えない、この分だと超能力も使うと体中がボロボロになるという推測が出来る。

#### 次は集めた情報

- 1 フールはとても強い魔術師で殺すなら不意打ち・騙し討ちが一番確実。
- 2 俺を縛るこの魔術は半年に一回調整が必要。
- 3 フールは自分のアジトに絶対の自信を持っている、だから外からの攻撃には守りは固いが、内からの攻撃には守りは弱い
- 4 フールはとても用心深く寝る時でも自分の得物でもあるロッドを置いている。

以上の事からフールに復讐するのは、半年後の魔術の調整の時しかない。それまでにフールを殺す作戦を考えないと、フールは用心深いから普通の作戦では殺す事は無理だ、そのため試したい事が有

る、この実験が成功すると不意打ちが楽になる。

ついに復讐するときが来た、この復讐を果たすため10年と半年掛かった、今、俺の前にはフールが俺に刻んだ魔術の調整をしている、チャンスは一回必ず仕留める。

俺はフールが視線を外した時に、影に隠していたナイフを取り出しフールに突き刺そうとしたが、途中でフールに気付かれ近くにあつたロッドで防がれた

「何故、私を殺そうとする」

「お前には家族を殺された恨みが有る、だからこそ今此処でお前を殺す。」

「それにしては、随分と六だらけな作戦だな、この程度で私は殺せない。」

「誰が、これだけで終わるといった……今だ！やれ！」

その言葉をいつた瞬間、影が盛り上がり、影から一人の分身が現れて螺旋丸をフールに叩き込んだ、フールは螺旋丸に当たり部屋の奥まで吹き飛んだ。

近づいて見ると、フールは虫の息で今にも死にそうだった。

「何故、影からお前が一人現れる、それに今の技はなんだ？魔術ではないみたいだが。」

「逸れを、お前に説明する必要はない」

俺が復讐前にした実験は、自分の影についての実験だ、俺の影はどんな大きな物でも幾らでも入る、しかし、生き物を入れたらどうなるのか試したことは無かつた、そこで影分身を入れ実験をやつてみたら、生きたまま出て来た、この実験の成果から先に影分身を影に潜めておく、その状態でフールの前にいき先に攻撃する、この時に防がれたら影に合図を出して螺旋丸を当てるという一重の罠を張つていた、上手くいってよかつた。

俺はフールを倒した事に油断していた、この時フールは最後の力で魔術を放とうとしていたのに俺は気付かなかつた、俺が気付いた時には魔術は放たれ、俺に当たる直前だつた、俺は回避をしたが間に合わず当たつてしまつた。

「フール！貴様、俺に何の魔術を当てる」

「貴様に当たたのは…普通の魔術では無い…私の命を削り貴様に…更に深く魔術をかけた…これで貴様は生きながら…動く死体に成り果てた…私は…もうすぐ死ぬ…精々…地獄の底まで…怨んでいな」

フルはその言葉をいった後死んだ、父さん・母さん漸く復讐が  
終わったよ。

俺は不思議と動く死体になつたのに取り乱していなかつた。

主人公が復讐を終える時、新しい道と交差する

## 主人公は復讐を達成する（後書き）

今回の話を読んでくれてありがとうございます。

まだ暫くはオリジナルで話を進めます、作者はもうすぐ主人公の師匠を書きたいです。

応援をよろしくお願いします次の更新は土曜か日曜日だと思います。

主人公は次の目的地へ向かう（前書き）

こんなにちはマサです。

今回の投稿はいつもより早く出来ました。

次は木曜日に投稿すると思います。

## 主人公は次の目的地へ向かう

今俺は、フールを殺した後に、フールが最後にいつた言葉が、とても気になり、自分の身体を調べている所だ。

自分の身体を調べ終わると、次の事がわかつた。

- 1・忍術を使うためのチャクラの埋量は多い。
- 2・生きたまま、動く死体コレシングデッドになつたから、太陽の光は苦手、夜になると戦闘力は上がる。
- 3・聖属性の魔術を受けない限り死はない。（死はないだけで痛みや怪我はする）
- 4・記憶力や反射神経などが爆発的に向上している。（神経が強いだけで力や速さは上がつていない）

俺の今の状況はまずい、フールに奴隸にされている時にいろいろな街を襲撃したから、国から指名手配されている、なるべく速く国を出ないと警察やら賞金稼ぎが動く、しかしフールのアジトをそのままにも出来ないから、一週間後にこの国を抜ける、幸い俺の家族は商人だったからここら辺の地理は全て覚えている。此処から一番近い街は、ギャンブルの街アガルタそこで金を稼ぐ。

フールのアジトから使える物を全て影に入れた後、俺はアジトを全て破棄して目的の街に向かつた、この国の警察や賞金稼ぎに会う前に、脱出出来てよかつた。

主人公が次の街に着いた時新しい物語りが始まる。

主人公は次の目的地へ向かう（後書き）

今回、話を見て貰えてありがとうございます。

次は、ギャンブルの街に着いた後の主人公の生活を書くと思います。

誤字、脱字があつたら報告をしてください。

お知らせ申します。

少し、お知らせがあります。この、「とある魔術の動く死体」の小説を読み直してみて、だんだんと文章が下手くそになつて来ていると作者が感じ、しばらくの間は更新しないで文章を直してみたいと思います。

この小説を読んでいる人がいたら、誠に勝手ですが小説の編集が終わるまで、しばらくは更新しないと思って下さい、なるべく早く編集を終えて、新しく更新したいと思います、今度からは文章も読みやすく面白い小説にしたいと思います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8685n/>

---

とある魔術の動く死体《リビングデッド》

2011年10月7日10時38分発行